

シチズンサイエンスで挑む 超高齢社会の孤立・孤独予防 加齢観を問い直す科学と実践のクロストーク

高齢者の社会的孤立・孤独は、健康や生活の質に深刻な影響を及ぼすリスク因子として知られており、予防のための社会的仕組みの構築は喫緊の課題です。JST-RISTEX SOLVE for SDGsの社会的孤立枠では、2022年より「シチズンサポートプロジェクトによる社会的孤立・孤独の一次予防」が始動しました。本プロジェクトでは、高齢者が新たなつながりや生きがいを見出せる場として、地域に「コミュニティー・シェッド」を立ち上げ、その効果を心理学・脳科学などの観点から実証的に検証しています。そこでは、高齢者が躍動し、新たな社会的つながりや生きがい、役割を獲得する姿が見られます。こうした姿は、「高齢者は衰えるだけ」といった旧来の加齢観に対する大きな挑戦であり、私たちの加齢に対する見方を再構築する必要性を突きつけています。

本シンポジウムでは、学術変革領域(A)「生涯学の創出—超高齢社会における発達・加齢観の刷新(通称:生涯学)」で代表者を務められた社会学・心理学・脳科学・実践研究の研究者と、シェッドメンバー、そしてそれをサポートするリハビリテーション分野の研究者による講演とクロストークを通じ、加齢に対する新しい見方と社会的孤立・孤独の一次予防の未来を描きます。

日時

2025年
12月13日(土)

13:00-17:00 (受付開始12:30-13:00)

参加費
無 料

会場(ハイブリッド)

【対 面】 東北大学文科系総合研究棟(C14)
2階206教室 募集定員:最大50名程度

【オンライン】 Zoom webinar 募集定員:500名

お問い合わせ 東北大学大学院教育学研究科伊藤研究室
担当:岩成(reiko.iwanari.c3@tohoku.ac.jp)

お申し込みは 参加のお申込みは下記URLか、2次元バーコードからおこなってください。
参加申込期限:2025年12月4日(木) 正午

【対面参加】  <https://forms.gle/fvC8fgWH3Qny3vFC7>

【オンライン参加】  <https://forms.gle/2MhvhdRNDttTxh9G7>

プログラム

シニア男性の健康とつながりを育むコミュニティー・シェッド
—地方農村からの挑戦と広がり—
松尾 崇史(熊本保健科学大学、JST-RISTEX「シチズンサポートプロジェクト」グループリーダー)

誰もが生活の主体として加齢を生きるために
—コミュニティー・シェッドの挑戦—
高島 理沙(北海道大学、JST-RISTEX「シチズンサポートプロジェクト」グループリーダー)

生活の“主体”は誰か?
—理学療法士としての問いとシェッドでの実践—
澄川 睦男(札幌メンズ・シェッド「ポッケコタン」グループリーダー)

社会的文脈でのヒト記憶の基盤となる
神経メカニズムとその加齢変化
月浦 崇(京都大学、学術変革領域研究A「生涯学」領域代表者、A02 生理心理班(認知神経科学))

知覚の加齢変化—多感覚統合による補償とその歪み—
寺本 渉(熊本大学、学術変革領域研究A「生涯学」A01 知覚・認知心理班(認知心理学)代表者)

最新の社会調査からみた孤立の実態と要因
筒井 淳也(立命館大学、学術変革領域研究A「生涯学」B01 高年社会参加班(社会学)代表者)

人類学と社会実装:生涯学プロジェクトからの展望
倉田 誠(東京医科大学、学術変革領域研究A「生涯学」C02 ヒトモノ班(文化人類学)代表者)

総合討論
【司会】伊藤 文人(東北大学、JST-RISTEX「シチズンサポートプロジェクト」代表者)